

視 察 報 告 書

報告者氏名 渡 辺 仁 二

1 参加者

流 政 会 渡 辺 仁 二

2 期 日

令和 8 年 7 月 1 4 日（火）

※日程の都合で前日より鹿児島市へ

3 視 察 地 及 び 調 査 事 項

（ 1 ） 視 察 先 か ご し ま 環 境 未 来 館 （ 鹿 児 島 県 鹿 児 島 市 ）

視 察 テ ー マ 環 境 学 習 ・ S D G s 推 進 及 び 市 民 協 働 に よ る 環 境
保 全 活 動 に つ い て

今回、鹿児島市の「かごしま環境未来館」を視察し、環境学習の推進や市民・事業者との協働による環境保全の取組について調査を行った。同施設は、市民が自発的に環境保全活動を実践し、その活動を促進する拠点として整備された施設であり、令和元年には SDGs や生物多様性など今日的な課題に対応するため展示内容を大幅にリニューアルしている。また、令和 7 年には「地域生物多様性増進活動支援センター」に登録され、地域の環境保全活動を支える中核施設としての役割も担っている。

施設は、かつて鹿児島実業高校が所在していた土地に建設されている。当地は過去に河川の氾濫被害を受けた経緯があり、高校移転後の跡地を有効活用して整備されたものである。建物そのものが環境教育教材となるよう設計されており、屋上緑化によるヒートアイランド対策、地下水を利用した冷房システム、アースピットによる自然換気、太陽光発電や蓄電池の導入など、環境負荷を低減する様々な技術が採用されている。来館者は展示だけでなく、建物そのものから環境技術を学ぶことができる点が大きな特徴である。

施設の運営は公益財団法人かごしま環境未来財団が指定管理者として担い、市から年間約 2 億 1 千 2 百万円の指定管理料を受けている。主な事業として、「環境学習の推進」「環境情報の収集・発信」「環境保全活動の支援」「市民協働の推進」「施設管理運営」の 5 つを柱に掲げており、Facebook や Instagram など SNS を積極的に活用するとともに、年 4 回約 1 万部発行する広報紙など、多様な媒体を通じて情報発信を行っている。

また、約 80 団体の環境保全団体と連携し、「地域まるごと共育講座」をはじめとする市民向け講座や体験型イベントを年間を通じて実施している。環境フェスタ、SDGs フェスタ、生物多様性保全活動、甲突川クリーン作戦、エシカルマルシェなど、こどもから高齢者まで幅広い世代が参加できる企画を数多く開催し、「環境問題を学ぶ」だけではなく、「実際に行動する」きっかけづくりを重視している点が印象的であった。

令和元年のリニューアル後は新型コロナウイルス感染症の影響により来館者数が減少したものの、その後は回復し、令和 6 年には累計来館者数 200 万人を突破している。年間約 10 万人が利用し、アンケートでは 9 割以上が満足と回答していることから、市民に親しまれる施設として定着していることが分かった。一方で、施設側は「環境を学んだ結果、実際に行動が変わったか」という行動変容の見える化や、事業者の参加が少ないことを今後の課題として挙げていた。地域の小学校と連携し、こどもたちの行動変容を可視化する新たな取組も進められており、単なる啓発施設ではなく、実践につながる施設運営を目指していることが理解できた。今回の視察を通じて、環境教育施設は単に展示を行う場所ではなく、市民・学校・企業・NPO を結び付ける「地域の環境活動拠点」として機能することが重要であると実感した。特に、こどもの頃から環境問題に触れ、自ら考え行動する力を育てることは、将来の脱炭素社会や循環型社会の実現に向けて極めて重要である。

流山市においてもゼロカーボンシティの実現を目指して様々な施策を展開しているが、環境学習や市民協働を総合的に推進する拠点機能については、さらに充実させる余地があると感じた。学校教育との連携強化に加え、市民団体や企業とのネットワークづ

くり、環境イベントの充実、さらには環境学習による行動変容が見える化する取組などは、本市でも十分参考になる先進事例である。

今後は、本視察で得られた知見を活かし、流山市においても環境教育と市民協働をより一層推進し、未来を担うこどもたちが環境について学び、地域全体で持続可能なまちづくりを実践できる体制づくりについて、市政に関する一般質問や政策提言を通じて積極的に提案していきたい。